

アドバンス・ケア・プランニング（以下 ACP とする）とは、年齢や病期にかかわらず、本人の価値観や今後受けてみたい医療・ケアについて何回も患者さん、ご家族と話し合いを繰り返して共有するプロセスです。今年度は、ACP ワーキングを立ち上げ、さまざまな疾患や年齢の患者さんの ACP について、事例を通して考えていく活動をしています。

ACP ワーキング



もしバナゲームは「人生の最後にどう在りたいか」という普段なんとなく避けている話題を話し合うきっかけに使用する。36枚のカードには重病のときや死の間際に「大事なこと」として人がよく口にする言葉が書いてある。このカードを用いてゲームをすることで、あなたにとって何が重要なのか、そして、なぜそれが必要なのかを考え、理解することができる。

カードの言葉



「家族と一緒に過ごす」
「いい人生だったと思える」
「痛みがない」「ユーモアをもち続ける」etc

「もしバナゲーム」を体験し、『あなたは余命6ヶ月です。』と言われたときに、自分にとって重要なカードを選び、その理由を話しました。



ACP の 4 つのステップ



「もしバナゲーム」を体験した感想

- 「患者さんが話したいと思っているときは、ゆっくり時間をかけて聞いてあげたい」
- 「普段考えていないことなので、患者さんにも思考の整理できるように対応したい」
- 「話を遮ることなく聞いてくれることが、うれしかった。患者さんにもそうしてあげたい」

ACP メンバーが中心になって、患者さんに価値観や今後の希望について日々聴きながら、その意思が実現するよう支援しています。この輪が広がっていくよう、みんなで頑張っています。